

—農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法 GAP—

## 2013 年 GAP 普及大賞

### JA 東予園芸とゼスプリゴールド部会 産地形成における GAP 利用 の取り組みが受賞しました

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、6 月 29 日に GAP 普及大賞の選考会を開催し、JA 東予園芸とゼスプリゴールド部会の取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

#### ■受賞事例（生産者連携による GAP 普及）

産地形成における GAP 利用のさきがけ

<受賞者>JA 東予園芸とゼスプリゴールド部会

JA 東予園芸とゼスプリゴールド部会は、高齢化の進む産地で GAP 普及に取り組み、国内のゼスプリゴールドキウイ産地の中で最初に JGAP 認証を取得した事例です。

JA 東予園芸とゼスプリゴールド部会は、生産者の平均年齢が 70 代と高齢化の進む産地で、2008 年から GAP の普及に取り組み、ゴールドキウイの産地形成と品質管理体制を構築しました。説明会やアンケート調査、勉強会等を各地で丁寧に繰り返し、マニュアルや帳票類を作成し、2010 年に JGAP 団体認証（135 農場）も取得しており、産地形成における GAP 利用のさきがけとして高く評価されました。

本事例はニュージーランドのゼスプリ・インターナショナル社が育成したキウイフルーツ「ゼスプリゴールド」を、季節が逆の日本でも生産し年間供給を目指す取り組みの一環です。消費者に認知された一つのブランドとして、地理的に離れた複数の産地（他地域の JA 等）での品質管理体制基準を統一し、生産規範の統一化にも取り組む必要がありました。それはまさに GAP の有効な活用方法であり、こうした GAP 活用の先行事例であることが高く評価されました。

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。

2013 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 常任理事）

梅本雅（農研機構 中央農研センター 企画管理部長）

## NEWS RELEASE

JA 東予園芸とゼスプリゴールド部会の取り組みに加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも優劣付けがたい GAP 普及の優良事例です。

■受賞事例（教育機関による GAP 普及）

GAP 普及に向けた教育プログラムの開発

<受賞者>宮崎大学農学部

■受賞事例（農業生産者による GAP 普及）

GAP 実践の深化と新規就農支援

<受賞者>農業生産法人かさい農産

以上、3 受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

■シンポジウム「GAP Japan 2013」

日時：2013 年 7 月 26 日 13 時から 17 時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）

関連ホームページ：[http://jgap.jp/LB\\_06/index.html](http://jgap.jp/LB_06/index.html)

問合せ先：佐久間 TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: [info@jgap.jp](mailto:info@jgap.jp)

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 \_\_\_\_\_ 部署名 \_\_\_\_\_ 御名前 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_